

令和2年  
第66回東京都十六高校対抗水上競技大会  
—大会要項—

加盟校

都立青山高等学校  
青山学院高等部  
都立桜修館中等教育学校  
都立大崎高等学校  
都立大森高等学校  
品川翔英高等学校  
学習院女子高等科  
都立北園高等学校  
千代田区立九段中等教育学校  
京華高等学校  
京華商業高等学校  
都立小石川中等教育学校  
麴町学園女子高等学校  
都立小金井北高等学校  
都立駒場高等学校  
駒場東邦高等学校  
都立小山台高等学校

都立新宿高等学校  
都立竹早高等学校  
筑波大附属高等学校  
筑波大学附属駒場高等学校  
都立つばさ総合高等学校  
東京大学教育学部附属中等教育学校  
都立戸山高等学校  
都立成瀬高等学校  
日本女子大学附属高等学校  
都立日比谷高等学校  
都立保谷高等学校  
文教大学付属高等学校  
都立三田高等学校  
三輪田学園高等学校  
都立雪谷高等学校

(32校)

東京都十六高校水上競技大会 運営総務 編

なお、この資料は平成30年度4月のものである。

## 1. 開催校及び大会会長 (第34回～)

回	年度	会場	大会会長	
38	1992年	都立小金井北高等学校	都立小金井北高等学校教諭	糸井 昌弘
39	1993年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
40	1994年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
41	1995年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
42	1996年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
43	1997年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
44	1998年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
45	1999年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
46	2000年	都立駒場高等学校	都立駒場高等学校教諭	杉村 正孝
47	2001年	都立九段高等学校	都立九段高等学校教諭	藤森 克悦
48	2002年	都立成瀬高等学校	都立成瀬高等学校教諭	奥秋 将史
49	2003年	辰巳国際水泳場	都立九段高等学校教諭	藤森 克悦
50	2004年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
51	2005年	辰巳国際水泳場	文教大学付属高等学校教諭	前畑 章子
52	2006年	辰巳国際水泳場	学習院女子高等科教諭	山本 智志
53	2007年	辰巳国際水泳場	小野学園女子高等学校教諭	熊坂 尚子
54	2008年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
55	2009年	辰巳国際水泳場	都立駒場高等学校教諭	鈴木 淳士
56	2010年	辰巳国際水泳場	都立新宿高等学校教諭	仮屋園 巖
57	2011年	辰巳国際水泳場	都立新宿高等学校教諭	仮屋園 巖
58	2012年	辰巳国際水泳場	都立雪谷高等学校教諭	浅沼 一弘
59	2013年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
60	2014年	辰巳国際水泳場	東京大学教育学部附属中等教育学校教諭	井口 成明
			小野学園女子高等学校教諭	熊坂 尚子
61	2015年	辰巳国際水泳場	小野学園女子高等学校教諭	熊坂 尚子
			学習院女子高等科教諭	山本 智志
62	2016年	辰巳国際水泳場	学習院女子高等科教諭	山本 智志
			文教大学付属高等学校教諭	前畑 章子
63	2017年	辰巳国際水泳場	文教大学付属高等学校教諭	前畑 章子
			千代田区立九段中等教育学校教諭	山口 尚己
64	2018年	辰巳国際水泳場	千代田区立九段中等教育学校教諭	山口 尚己
			駒場東邦高等学校教諭	吉川 悠希
64	2018年	辰巳国際水泳場	駒場東邦高等学校教諭	吉川 悠希
	桐蔭横浜大学准教授		井口 成明	
65	2019年	辰巳国際水泳場	桐蔭横浜大学准教授	井口 成明
66	2020年	学校開催	桐蔭横浜大学准教授	井口 成明

## 2. 十六校について

### 1) 起源

本大会は1956年にその起源を有し、その年第二回大会を開催して以降、年一回のペースで開かれている。当時の参加校数が大会名称の由来である。インターハイや全国J.Oなどの全国大会に出場できない選手にも夏の最後に大会出場の機会を与えたいとの趣旨で始められたと言われている。制限タイムが存在しないこと、標準タイムはあるがそのタイム規定のレベルが高くないこと、大会を卒業生が中心となって運営していることなどの点でその趣旨は現在も同じであると確認できる。

### 2) 大会規模

現在の加盟校は32校（平成31年4月現在）であり、昨年の参加生徒数は約800名。これに加えて、各校の卒業生・顧問・生徒の家族等が観戦に訪れることを踏まえれば、2日間で約1500名以上の大会となる。

### 3) 会場

2003年より大会が公認化され、東京辰巳国際水泳場での開催となる。48回大会までは公立高校などを使用していたが、大会規模の肥大によって安全面や会場校にかかる負担などの問題等から公認化され、東京辰巳国際水泳場の使用が可能となった。

### 4) 開催時期

例年8月末（23日～24日頃）としているが、一昨年度より他団体の競技会との兼ね合いにより8月15日～16日の開催となる。

### 5) 大会形式

本大会は対抗戦形式を取っている。ゆえに、個人競技と言われがちな水泳であるが、母校という枠の中で選手・卒業生などが一つのチームとなり、団体競技に近い雰囲気を持つ。

## 3. 競技会運営について

### 1) 各組織について

#### a. 顧問会

各加盟校の水泳部顧問により成立している。大会全体の責任を負っており、大会の主権を担っている。大会規模の肥大化により学生主体で責任を負える規模の大会ではなくなってきたため、顧問会の決定がなければ大会を開催することもできない。社会の中にある大会として、全加盟校の信頼を得るためにも最終決定権は顧問会にあるものとする。

#### b. 運営委員会

委員会の進行役である運営総務と各加盟校より選出され自校の決定権を持つ運営委員で構成される。顧問会が提案した枠組みの中で、大会をより良いものにする為に活動する組織である。大会運営に各校の意見を反映させることのできる機関でもある。運営委員会開催の日時・会場の手配は運営総務が行う。

#### c. 運営総務

大会運営上の実行組織で、大会の成功及び長期に渡る存続を目標とする。運営委員長・副運営委員長・会計・庶務・競技担当によって構成される。運営委員会の開催・議事進行など、仕事は多岐にわたる。

### 2) 大会主権について

大会主権は顧問会である。平成11年度までは十六校運営委員会が主催していたが、加盟校を卒業した学生のみで構成されていたため、万が一の事態に対する責任能力を考慮し、顧問会に変更された。

### 3) 加盟及び除名・出場停止

本大会への加盟校は大会規約大会規約「第三章 第二十六条」に掲げる条件を満たさなければならない。また、これらはあくまで「加盟」条件であり「大会出場」には新たな条件が存在する。よって、大会に参加せずとも加盟を続けることは可能である。

また、加盟校は、十六校大会の信用を傷つけ大会の健全なる運営を妨げたと運営委員長に判断された場合、当該校は大会出場停止・除名を含めた厳格な処分を受けることがある。

#### 4) 大会参加

大会に参加する学校は大会規約「第四章 第三十七条」に掲げる条件を満たさなければならない。

#### 5) 保険・安全面

水泳という競技の特色上、水難事故が発生する可能性がある。また、選手の急激又は過度の運動による軽度の傷害も起こりうる。そのため十六校大会は例年選手及び選手外生徒全員に傷害保険を申し込んでいる。**今年度大会は会場及び日程が分散しているため十六校大会としては保険に加入しない。傷害保険の加入は任意とする。**希望の学校は1日のみの保険を紹介するので加入を勧める。実際事故が起こった場合に保険会社から支払われる保険額は以下の通りである。

		プラン A	プラン B
ケガの保証	障害死亡保険金	300万円	400万円
	障害入院時一時保険金	9万円	12万円
	骨折時一時保険金	9万円	12万円
賠償の保証	日常生活賠償保険金 (本人のみ保障)	1億円	3億円
その他の保障		200万円	350万円
保険料 (1日・1名あたり)		500円	700円

<https://www.ms-ins.com/personal/travel/oneday/>

また、大会開催期間中、万が一事故などが発生した場合にも適切な処置をしていただけるよう、顧問が最低一名は対応することが大会参加の前提となっている。事故の事前予防という観点からは危険な場所への立ち入り禁止を今まで通り徹底する。保険加入について詳しい案内が必要な学校は運営総務までご連絡ください。

### 第65回東京都十六高校対抗水上競技大会要項

1. 主催 東京都十六高校対抗水上競技大会運営委員会
2. 主管 同上 大会運営委員会
3. 期間 2020年8月31日まで
4. 場所 各校にて実施

※プールの無い学校、使えない学校については貸し出し可能な学校のプールを使用する。  
学校割り振りについては個別で連絡する。

#### 【今年度大会について】

今年度の十六高校対抗水上大会は、通常で開催場所に集まったの大会形式を開催できないと判断しました。コロナウイルスにおける生徒及び界最高の安全性を担保できないことが理由です。

今年度大会は各学校での記録会のタイムを集計する、**分割開催の形式をとります。**現役生徒からはどんな形でも十六校を開催してほしいとの声を多くいただいており、我々運営委員会の総意としてはそのような現役の気持ちに応えたいという考えです。このような大会形式を採用することで、(1) 最高学年にとっての「区切り」の大会となること、(2) 密集することが比較的少なく、(3) 各学校の事情に関わらず比較的容易に参加が可能になる、と考えております。

#### 【大会理念に関して】

以上のように、例年の大会のような公平な競技会としての側面は大きく損なわれるものとなること

は、否めません。そのため今年度大会は順位付けを行わない各校での記録会となっています。他校と競い合う実感が無い今年度大会を例年の十六校のように捉えることは難しいと思います。通常の大会とは異なる思い出の場となるような企画等も検討しております。

### 【大会運営に関して】

各校の大会運営は、各学校の十六校運営委員が中心となって行います。各学校顧問の皆さまと運営委員が連絡を取っていただけると幸いです。各校開催のため、各校への負担が多くなってしまいかと思います。大会開催に向けた様々なガイドラインを十六校総務から提供させていただくなど、できる限りの協力をさせていただきます。各学校、夏休み期間の縮小や夏期講習、補習など様々な事情があると思います。記録に関する箇所以外は各校の事情に合わせて変更していただいて構いません。現役の皆さんが各学校での記録会で全力を尽すために、今年度大会に関わる全員で十六校大会を作り上げていきましょう。

### 開催要項

#### 1. 競技種目

	男子				女子			
・自由形	100m	200m	400m	800m	50m	100m	200m	400m
・背泳ぎ	100m	200m			100m	200m		
・平泳ぎ	100m	200m			100m	200m		
・バタフライ	100m	200m			50m	100m		
・個人メドレー	200m	400m			200m	400m		
・リレー	4×50m	4×200m			4×50m	4×100m		
・メドレーリレー	4×100m				4×50m			

#### 2. 競技方法

各校で記録会を行い、記録を本部で集計します。

- ① 2020年8月31日までに各校記録会を実施してください。
- ② 各校運営委員の立会いのもと記録は各校で測ってください。
- ③ 所定のフォーマットに記録を記入し、大会本部へ送ってください。

#### 3. エントリーについて

今年度大会は本部へ参加種目の通達は必要ありません。

各校運営委員が参加種目を集め、当日泳ぐ種目が変わらないようにしてください。

- ① 1人2種目まで参加できます。
- ② 種目ごとの人数制限は行いません。
- ③ リレーチーム数の制限は行いません。
- ④ 記録賞を作成する予定ですのでリレーは正チームを1つ作ってください。

各校開催になるためエントリー費、連盟費は頂戴しません。  
来年度のエントリー費等で調整させていただく可能性もありますが、今年度大会にかかる諸経費は、繰越金で対応させていただきます。

#### 4. 記録について

- ① 今年度大会は会場が異なり公平性がないため対抗戦の形は取らず総合順位は出しません。
- ② 個人種目の競技結果は参考記録とし、大会記録には認めません。

#### 5. 競技役員について

対抗戦の形を取らないため審判派遣は行いません。  
各校運営委員中心に OBOG、選手、マネージャー協力しあって記録を取ってください。記録を取る際の注意点など審判経験のない方でも対応可能なガイドラインを提示します。  
競技役員についてご不明な点、ご相談等あればご連絡ください。  
最悪の場合審判派遣も検討しつつお手伝いさせていただきます。

#### 6. ガイドラインについて

記録会を円滑に運営するため、同水準の記録会にするため大会開催に関するガイドラインを提示します。それぞれガイドラインの対象が異なりますのでご注意ください。

- 1) 大会準備に関するガイドライン（現役生徒、運営委員対象）
  - ・熱中症 ・応急処置 ・心肺蘇生法 ・栄養 ・トレーニング
  - ・メンタルケア ・コロナ対策で心がけること
- 2) コロナ対策ガイドライン（参加者全員対象）
- 3) 審判ガイドライン（運営委員対象）

#### 7. 記録の公表に関して

個人情報保護の理由で記録の公表に関して名前を使用せず選手番号を使用します。  
大会本部との記録のやり取りの際も選手番号を使用するため個人の特定はできません。



- ① 学校番号、学年番号をこちらで割り振り、各学校へ公表をします。

② 個人番号は各学校で割り振っていただき大会本部への通達も必要ありません。

## 8. 競技順序

1. 男子4×100MR	16. 女子4×50R
2. 女子4×50MR	17. 男子4×50R
3. 女子200Fr	18. 女子200IM
4. 男子200Fr	19. 男子200IM
5. 女子200Ba	20. 女子100Ba
6. 男子200Ba	21. 男子100Ba
7. 女子100Fly	22. 女子200Br
8. 男子200Fly	23. 男子200Br
9. 女子100Br	24. 女子50Fly
10. 男子100Br	25. 男子100Fly
11. 女子50Fr	26. 女子100Fr
12. 男子800Fr	27. 男子100Fr
13. 女子400IM	28. 女子4×100R
14. 男子400IM	29. 男子4×200R
15. 女子200Fr	

※今年度大会は各校開催のため各校の事情に合わせ自由に改変していただいて構いません。例年の競技順序に近いものを例として挙げさせていただきます。

— 問い合わせ先 —

【十六校大会運営総務】 [16schools.general.affairs@gmail.com](mailto:16schools.general.affairs@gmail.com)

運営委員長

栗田 頌平 京華高校